

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月7日

上場会社名 株式会社 ゴールドウィン  
 コード番号 8111 URL <http://www.goldwin.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 明男  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長  
 兼財務部長 (氏名) 二川 清人  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月13日

上場取引所 東

TEL 03-3481-7203

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	19,326	—	△1,208	—	△424	—	△127	—
20年3月期第2四半期	18,289	0.9	△2,633	—	△1,694	—	△1,970	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
21年3月期第2四半期	△2.19		—	
20年3月期第2四半期	△33.78		—	

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
21年3月期第2四半期	42,538		12,619		29.2	212.99		
20年3月期	45,551		14,130		30.6	239.25		

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 12,423百万円 20年3月期 13,952百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	45,000	△0.8	500	—	2,000	—	2,000	—	34.30	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有  
 新規 一社(社名 ) 除外 1社(社名 株式会社ウエザーステーション )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 [(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無  
 [(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 58,478,218株 20年3月期 58,441,218株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 149,355株 20年3月期 124,370株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 58,313,918株 20年3月期第2四半期 58,327,622株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、米国経済の減速ならびに金融危機や原油価格および原材料価格の高騰により企業収益が急速に悪化し、景気は後退局面入りを感じさせる状態となりました。

スポーツアパレル業界におきましても、健康に対する意識の向上によりスポーツへの関心は高まっておりますが、ガソリン価格や食料品および日用品の価格上昇などの影響から個人消費が落ち込み、厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中、当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）は当連結会計年度を第2年度とする中期経営計画に基づき経営構造改革に全社をあげて取り組んでおります。当第2四半期連結累計期間の経営構造改革の進捗状況は、調達手法改革による商品原価低減と需要予測に基づく商品調達の適量化により返品・値引が大幅に低減し、売上総利益が前年同期比で大幅に改善いたしました。また、在庫の総量抑制と回転率の向上、返品の高減効果による物流コストの削減および前連結会計年度に実施した人員の削減による人件費の抑制などにより販売費及び一般管理費が低減し、前連結会計年度に不採算事業から撤退した効果も合わせて、前年同期に比べ営業損益が大幅に改善いたしました。

ブランド事業といたしましては、アスレチックスタイル事業におきまして、前連結会計年度に導入しました「スピード」ブランドの積極事業拡大を進めてまいりました。競泳用水着「レーザー・レーサー」着用選手が世界記録を多数更新し、社会的な注目を集めました。しかしながら、オリンピック対策およびチーム需要等の大幅な増加による、経費の増加と生産計画の組替えにより、売上高は前年同期比で大幅な拡大をしているものの収益基盤の確立が遅れており、全社業績に寄与するには至っておりません。また、「エレッセ」ブランドは店頭状況に連動した短サイクル生産を推進し、返品・値引が大幅に低減し収益改善が進み、2WAYストレッチパンツ「ツアーパンツ」などに代表されるボトムス類が堅調に推移しております。

アウトドアスタイル事業におきましては、「ザ・ノース・フェイス」ブランドが、トレイルランニング等のアウトドアアスレチックを提案した新製品や、レインウエア、ウインドブレーカー、バッグ等の商品にお客様より高い支持をいただき、好調に売上を伸ばしております。

アクティブスタイル事業におきましては、ウインター関連商品の流通在庫が減少したことに伴い新製品の立ち上がり当初予定より早まったことで収益改善が進んでおります。また、自転車、バイクウエアなどの通年型商品群も堅調に推移しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、当初計画を若干上回る推移となっております。売上高19,326百万円（前年同期比5.7%増）、営業損失1,208百万円（前年同期は2,633百万円の損失）、経常損失424百万円（前年同期は1,694百万円の損失）、四半期純損失127百万円（前年同期は1,970百万円の損失）となり、経営改革の効果が予定通り発現し、前年同期に比べ大幅に業績を改善することができました。

なお、前年同期比は、参考情報として記載しております。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,012百万円減少し42,538百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の減少（1,088百万円）、東京第2ビル売却等による有形固定資産の減少（771百万円）などによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末比1,501百万円減少し29,919百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が930百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、為替換算調整勘定の影響により前連結会計年度末比1,511百万円減少して12,619百万円となりました。その結果、自己資本比率は29.2%となっております。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は3,628百万円となり、前連結会計年度末より991百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用したキャッシュ・フローは2,335百万円となりました。これは、売上債権の減少によるキャッシュ・フローの増加が1,088百万円あったものの、仕入債務の減少（930百万円）、たな卸資産の増加（538百万円）等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られたキャッシュ・フローは833百万円となりました。これは主に、固定資産（東京第2ビル）の売却収入によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られたキャッシュ・フローは511百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加による

ものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年9月30日にお知らせいたしましたように、固定資産（東京第2ビル）の譲渡価額の変更に伴い、当期純利益を修正いたします。

なお、第2四半期累計期間の業績におきましては、売上高、営業利益、経常利益ともに当初予想を上回っておりますが、サブプライムローン問題に端を発した世界的規模の金融不安、株価の低迷等先行き不安を強める要因の影響による消費マインドの冷え込み等市場環境はますます厳しくなることが予想されることから、通期見通しでは当初予想を変えておりません。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成20年4月1日付で当社が連結子会社(株)ウエザーステーションを吸収合併したことにより(株)ウエザーステーションは消滅いたしました。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

- ① 当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算出したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において算出した貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。
- ② 減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,311	5,256
受取手形及び売掛金	9,159	10,248
商品及び製品	8,796	8,369
原材料及び貯蔵品	683	600
仕掛品	121	94
その他	2,153	1,901
貸倒引当金	△218	△266
流動資産合計	25,007	26,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,435	2,683
土地	1,226	1,729
その他（純額）	200	220
有形固定資産合計	3,861	4,633
無形固定資産		
商標権	1,373	1,567
その他	257	266
無形固定資産合計	1,630	1,833
投資その他の資産		
投資有価証券	8,016	8,765
差入保証金	2,977	2,986
その他	1,463	1,545
貸倒引当金	△419	△418
投資その他の資産合計	12,038	12,879
固定資産合計	17,531	19,346
資産合計	42,538	45,551

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,790	10,720
短期借入金	5,768	2,778
1年内償還予定の社債	2,900	3,110
1年内返済予定の長期借入金	1,495	2,883
未払法人税等	75	96
賞与引当金	595	426
返品調整引当金	382	409
その他	1,531	2,190
流動負債合計	22,538	22,616
固定負債		
社債	960	1,370
長期借入金	3,968	4,443
退職給付引当金	1,694	1,689
その他	756	1,301
固定負債合計	7,380	8,804
負債合計	29,919	31,420
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,329	10,321
資本剰余金	8	5,532
利益剰余金	2,357	△3,047
自己株式	△36	△28
株主資本合計	12,659	12,777
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	325	624
繰延ヘッジ損益	△30	△51
為替換算調整勘定	△530	601
評価・換算差額等合計	△235	1,174
新株予約権	185	171
少数株主持分	10	7
純資産合計	12,619	14,130
負債純資産合計	42,538	45,551

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	19,326
売上原価	12,204
売上総利益	7,121
返品調整引当金戻入額	27
差引売上総利益	7,149
販売費及び一般管理費	8,357
営業損失(△)	△1,208
営業外収益	
受取利息	18
受取配当金	27
持分法による投資利益	952
その他	94
営業外収益合計	1,091
営業外費用	
支払利息	151
その他	156
営業外費用合計	307
経常損失(△)	△424
特別利益	
固定資産売却益	387
貸倒引当金戻入額	50
その他	23
特別利益合計	460
特別損失	
固定資産処分損	12
ブランド整理損	55
その他	32
特別損失合計	100
税金等調整前四半期純損失(△)	△63
法人税、住民税及び事業税	63
法人税等合計	63
少数株主損失(△)	△0
四半期純損失(△)	△127

(第2四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
売上高	11,534
売上原価	7,482
売上総利益	4,051
返品調整引当金繰入額	83
差引売上総利益	3,968
販売費及び一般管理費	4,261
営業損失(△)	△293
営業外収益	
受取利息	11
受取配当金	0
持分法による投資利益	450
その他	56
営業外収益合計	518
営業外費用	
支払利息	84
為替差損	48
その他	60
営業外費用合計	193
経常利益	31
特別利益	
固定資産売却益	387
貸倒引当金戻入額	13
その他	21
特別利益合計	422
特別損失	
固定資産処分損	1
ブランド整理損	48
その他	31
特別損失合計	81
税金等調整前四半期純利益	371
法人税、住民税及び事業税	48
法人税等合計	48
少数株主利益	0
四半期純利益	323

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
 (自 平成20年4月1日  
 至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△63
減価償却費	328
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	5
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△46
受取利息及び受取配当金	△45
支払利息	151
持分法による投資損益 (△は益)	△952
有形固定資産売却損益 (△は益)	△387
売上債権の増減額 (△は増加)	1,088
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△538
仕入債務の増減額 (△は減少)	△930
その他	△457
小計	△1,848
利息及び配当金の受取額	92
利息の支払額	△157
法人税等の支払額	△90
訴訟和解金の支払額	△332
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△875
定期預金の払戻による収入	826
有形及び無形固定資産の取得による支出	△62
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,018
投資有価証券の取得による支出	△12
投資有価証券の売却による収入	37
差入保証金の差入による支出	△11
その他	△86
投資活動によるキャッシュ・フロー	833
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	10,950
短期借入金の返済による支出	△7,960
長期借入れによる収入	750
長期借入金の返済による支出	△2,612
社債の償還による支出	△620
その他	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	511
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△991
現金及び現金同等物の期首残高	4,619
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,628

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### （４）継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度において2,009百万円の営業損失を計上し、2期連続の営業損失となりました。当第2四半期連結累計期間の営業損益は、計画以上に改善したものの1,208百万円の営業損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成19年11月15日に発表した中期経営計画に基づき、前連結会計年度には基礎収益力の回復策として「不採算事業からの撤退」「人員体制の見直しによる人件費の削減」を行い、また財務体質の強化とバランスシートの健全化をめざして「本社ビルの流動化」を実施し、有利子負債を削減する等、構造改革を予定どおり実施いたしました。

中期経営計画の骨子は以下のとおりです。

- ・不採算事業からの撤退による採算性の確保
- ・人員体制の見直しによる人件費の削減
- ・調達改革によるコストおよび在庫の削減
- ・物流改革によるコストの削減
- ・不動産の売却による有利子負債の削減

当第2四半期連結累計期間は、調達手法改革による商品原価低減と需要予測に基づく商品調達の適量化による返品・値引の削減に努め、前年同期を大幅に上回る売上総利益を確保いたしました。また、物流改革として品番数の削減による在庫管理の効率化および総物量の圧縮を推し進め、物流コストの削減に努めており、今後も継続的に推し進めてまいります。

また、「ザ・ノース・フェイス」ブランド事業は予定どおり好調に推移しており、導入2年目の「スピード」ブランド事業につきましても、競泳用の水着が社会的な注目を集めたこともあり、事業の積極的拡大を図っております。

引き続き上記に掲げた経営改革諸施策を着実に実行し、平成21年3月期においては期初計画どおり営業利益の黒字化の実現を目指してまいります。

資金面におきましては、本社ビルおよび東京第2ビル売却資金による借入金返済も含め、当第2四半期連結会計期間末には前年同期末に比べ有利子負債を9,831百万円削減しております。今後も主要金融機関との取引関係維持・強化により、資金調達の安定化を図るとともに、さらなる有利子負債の圧縮に取り組んでまいります。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提に作成されており、上記の重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

#### （５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

欠損填補に充てるため、資本剰余金5,532百万円を利益剰余金に振り替えております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高	18,289	100.0
II 売上原価	12,059	65.9
売上総利益	6,230	34.1
返品調整引当金戻入額	100	0.5
差引売上総利益	6,330	34.6
III 販売費及び一般管理費	8,963	49.0
営業損失 (△)	△2,633	△14.4
IV 営業外収益		
1. 受取利息	16	
2. 受取配当金	23	
3. 持分法による投資利益	1,053	
4. その他	165	6.9
V 営業外費用		
1. 支払利息	202	
2. その他	118	1.8
経常損失 (△)	△1,694	△9.3
VI 特別利益		
1. 貸倒引当金戻入益	40	
2. その他	8	0.3
VII 特別損失		
1. 投資有価証券評価損	29	
2. その他	124	0.8
税金等調整前中間純損失 (△)	△1,799	△9.8
法人税、住民税及び事業税	68	
法人税等調整額	102	1.0
少数株主損失	0	0.0
中間純損失 (△)	△1,970	△10.8

## (2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失	△1,799
減価償却費	374
持分法による投資利益	△1,053
退職給付引当金の減少額	△52
貸倒引当金の増加額	44
受取利息及び受取配当金	△39
支払利息	202
売上債権の減少額	298
たな卸資産の増加額	△2,455
仕入債務の減少額	△1,327
その他	△556
小計	△6,364
利息及び配当金の受取額	39
利息の支払額	△205
法人税等の支払額	△55
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,586
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△680
定期預金の払戻による収入	639
有形・無形固定資産の取得による支出	△53
投資有価証券の取得による支出	△9
投資有価証券の売却による収入	0
その他	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△133
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額	6,100
長期借入による収入	2,400
長期借入金の返済による支出	△1,076
社債の償還による支出	△570
その他	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,852
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	3
V 現金及び現金同等物の増加額	135
VI 現金及び現金同等物の期首残高	4,102
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	4,237